

奥羽大学報



奥羽祭

104

目次

薬学部収容定員変更認可及び報告会／	
第1回奥羽大学薬学部実務実習連絡協議会準備委員会開催…	2
オープンキャンパス／公開講座 ……………	3
平成18年度科学研究費補助金申請状況／	
平成18年度入学試験日程 ……………	4
奥羽大学倫理審査委員会／	
第6回奥羽大学歯学部歯科医学教育者ワークショップ ……	5
ディーゼル排ガスの健康影響に関する研究への取り組み／	
第40回奥羽大学歯学会 ……………	6
奥羽大学文学部第46回発表会／奥羽祭 ……………	7
保護者懇談会／	
2005年度第2回就職“HONKI”セミナー ……………	8
インターンシップ報告会／文学部就職個別面談／	
薬学部キャリアガイダンス ……………	9
附属病院……………	10
私が薦める一冊の本……………	11
余滴……………	12
同窓会……………	13
同窓生のひろば……………	14
慶弔／人事……………	15
行事予定……………	16

薬学部収容定員変更認可及び
報告会

薬学部の収容定員の学則変更認可申請を7月27日(水)に文部科学省に行っていたが、9月30日(金)付けで認可を受けることができた。薬学部の6年制への修業年限の延長に伴うもので、これにより収容定員は1,200人となった。歯学部と共に6年制になったことにより、特色の一つとなる歯学部との連携がさらに強まるものと期待される。本学薬学部の薬学教育の目指すものは、「医療人」としての薬剤師、それも質の高い薬剤師の養成を通じて地域の活性化、地域住民の健康増進と福祉の向上に寄与することである。

なお、薬学部6年制課程認可の報告会が、福島県薬剤師会と福島県病院薬剤師会の役員を招待して、10月29日(土)郡山ビューホテルアネックスにおいて行われた。

本学からは、影山理事長、清水学長をはじめ、薬学部教員全員と関係部署の教職員が出席した。はじめに、影山理事長の認可報告と謝意を表した開会の挨拶があり、永井薬学部長から6年制課程認可までの経過報告がされた。来賓の福島県薬剤師会の桜井英夫会長と福島県病院薬剤師会の若松伸洋会長からの祝辞があり、清水学長の乾杯の後、懇親会へと移った。学生の学外実務実習でお世話になる役員の方々と懇親を深める良い機会となり盛会のうちに終了することができた。



第1回奥羽大学薬学部実務実習
連絡協議会準備委員会開催

平成17年10月7日(金)に、郡山ビューホテルにおいて第1回奥羽大学薬学部実務実習連絡協議会準備委員会を開催いたしました。本会議は、本学6年制の実務実習を円滑に進める目的で、福島県薬剤師会、福島県病院薬剤師会、本学教員で組織されます。今回は、委嘱申し上げた先生方全員に出席いただきました。

出席者

- ・ 県薬剤師会
影山勝三副会長、鳥貫英二常務理事、橋本直也郡山支部長
- ・ 県病院薬剤師会
若松伸洋会長、井上正広郡山支部長
- ・ 本学教員
東海林徹教授、野鳥浩史教授、押尾茂教授、阿部賢志講師
- ・ 本学事務
佐藤和義学事部長、星幸宏教務課長

各委員の自己紹介後、本学東海林徹が委員長に選出されました。協議事項は6年制対応実務実習を中心に意見交換をしました。若松伸洋会長から、「3クールでの実務実習を考慮しなければならないが、現実的には業務との兼ね合いで、県内だけで受け入れできるか難しい(病院薬剤師会としての今までの1年間の最高受け入れ人数は1ヶ月の実習で98名である)。奥羽大学の学生200名の受け入れには、ふるさと実習を考えないと難しい。また、実習の開始時期は各大学で統一しないと学生の受け入れは困難である」との意見が出されました。それに対して、本学としては、ふるさと実習も視野に入れ検討したい旨、そして福島県薬剤師会、病院薬剤師会のご協力をお願いしました。また、薬剤師会、病院薬剤師会から本学附属病院の活用方法を考えるべきであるとのご意見をいただきました。

2つめの議題としてワークショップの開催について議論しましたが、本学が中心になり当初はタスクフォースの育成が必要となるこ

とで意見が一致しました。また、薬剤師会からは、実務実習モデル・コアカリキュラムを各支部に伝える研修会の開催に協力して欲しい旨の意見があり、本学として全面的に協力することを伝えました。

会議終了後に、清水学長、永井薬学部長の参加をいただき、懇親会を開催し、次回の準備委員会は、12月初旬に開催することを了解し、なごやかなうちに懇談が終了しました。このように6年制実務実習はすでに始まっており、本学の対応と福島県薬剤師会、病院薬剤師会との対応での意見交換は大変重要と考えております。

(東海林 徹)

オープンキャンパス

10月16日(日)秋晴れの心地良い学園祭2日目、同時にオープンキャンパスが開催され、個別進学相談会が行われた。

5号館に設けられた個別進学相談会場では、学事部職員が歯学部・薬学部担当に分かれて相談に応じ、歯学部10組、薬学部25組の計35組が相談に訪れた。受験を目前に控えた高校3年生の参加が大半を占めたが、まだ高校1年生の相談者も数名参加しており、「第一志望は奥羽大学に決めています！」と熱い意気込みを語ってくれた。昨年度のオープンキャンパス参加者の中にも、現在本学に入学している学生は数名おり、このような参加者の存在は大学としてもとても喜ばしいことである。今年度参加者の中からも、本学入学者が生ま

れることを楽しみにすると同時に、来年度、再来年度とオープンキャンパスにたくさんの参加者が訪れることを期待したい。

公開講座

本学公開講座は今年度より歯学部と薬学部の共同運営となり、「お口とからだの健康」というテーマのもと、医療系大学の特色を活かして開講した。受講者数は、1回目が60名、2回目が46名、3回目が74名、4回目が57名、あわせて237名であった。

前回までの文学部が担当した「文学・文化・言葉」を中心とした内容から、講座内容が変更になったため受講者の減少を心配していたが、昨年度と同じ受講者数であった。これは、歯学部附属病院の協力で、来院患者をはじめ、県内の各医療機関、福祉施設や学校へ本講座を案内したためであると思われる。

なお、参加者のアンケート結果は概ね好評であった。



平成18年度科学研究費補助金申請状況

科学研究費補助金とは、あらゆる学術研究の発展を目的とする独創的・先駆的な研究に対する助成金である。今回、文部科学省・日本学術振興会より平成18年度の公募があり、本学から85件（歯学部66件、薬学部19件）の新規申請を行った。申請の内訳は、右記の通りである。昨年に比べ、15件多い申請数となった。

採択結果の発表は来年4月以降となるが、本学の教育に役立つ研究が数多く採択されることを期待する。

研究種目	目的・内容	助成額	H16 応募数	H17 応募数	H18 応募数
基盤研究 (A)	一人または共同で行う独創的・先駆的研究	2千万～5千万			1
基盤研究 (B)		5百万～2千万	5	5	3
基盤研究 (C)		5百万以下	20	27	36
萌芽研究	独創的発想、特に意外性のある着想に基づく萌芽期の研究	5百万以下	3	2	6
若手研究 (A)	37歳以下、一人で行う研究	5百万～3千万	3		
若手研究 (B)		5百万以下	28	36	39
合 計			59	70	85

平成18年度入学試験日程

学 部		歯 学 部			薬 学 部		
区 分		出願期間	試験日	合格者発表	出願期間	試験日	合格者発表
一般選抜入学	一期試験	1/10(火)～ 2/6(月)	2/8(水)	2/9(木)	1/10(火)～ 2/6(月)	2/10(金)	2/14(火)
	二期試験	2/13(月)～ 3/1(水)	3/3(金)	3/4(土)	2/20(月)～ 3/3(金)	3/6(月)	3/9(木)

※推薦入試は11月に終了しました。

奥羽大学倫理審査委員会

新薬の開発は臨床研究なしに行うことができない。従って、臨床研究は最近その重要度を一段と増加させている。歯学の進歩に不可欠の臨床研究は被験者の福利に十分に配慮しなければならない。生命倫理的な問題をないがしろにして、臨床研究を遂行することはできない。これらの点を考慮して、研究者が円滑に臨床研究を行うことができるように倫理指針が定められている。本学においても臨床研究課題の適切性を判断するために奥羽大学倫理審査委員会が発足した。

6月28日(火)に、新田敏正歯学部長の招集により第1回倫理審査委員会が開催され、口腔生化学の堀内登が委員長に選出された。委員は、清野和夫教授、鎌田政善教授、横瀬敏志教授、山崎章教授、浜田節男教授、さらに3名の学識経験者から構成されている。9月に開催された倫理審査委員会で、提出された研究計画が科学的に妥当であり、被験者を不要な危険に曝していないか、インフォームド・コンセントは被験者もしくは法的に認定された代表者から得られているか、被験者の危険性は最少になっているか、被験者のプライバシーと秘密保持は十分か、などについて厳正に審査した。

その結果、4件の研究課題が倫理指針に沿っているとして承認された。今後、薬学部における研究を含めた全学的な倫理審査委員会に発展していくと思われる。これにより、本学における臨床研究体制が一層充実し、臨床を基盤とした研究が質量ともに増大していくことが期待される。

(堀内 登)

第6回奥羽大学歯学部歯科医学教育者

ワークショップ

第6回歯科医学教育者ワークショップが去る9月22日(木)に本学の5号館で行われた。今回は第5回歯科医学教育者ワークショップと同様に、テーマは「6年一貫教育」とし、本

学歯学部教育における6年一貫教育の構築と、それを推進するための教育組織の改革を目的としたもので、ディレクターを新田敏正歯学部長が、コ・ディレクターを山崎章学生部長がとめた。また、タスクフォースには学生部の清野和夫教授、鈴木康生教授、丸井隆之教授、鈴木陽典教授と鎌田政善があたり、さらにカリキュラム委員の横瀬敏志教授、伊東博司助教授、宗形芳英助教授と山森徹雄助教授が加わった。

参加者は第5回歯科医学教育者ワークショップに参加できなかった教養、基礎、臨床の教員28名であり、4グループに分かれて実施された。開講式で新田歯学部長から挨拶があり、その後「6年一貫教育とは」と題して横瀬敏志教授から解説が行われた。セッションⅠではKJ法と二次元展開法による「本学における6年一貫教育の問題点の抽出と対応」についてグループ作業が行われ、そのプロダクトを各グループが発表し全体討議を行った。セッションⅡでは「6年一貫教育のカリキュラム作成」を4時間かけて作業を行い、各グループでのカリキュラム・プランニングに活発な討議が行われた。その後セッションⅢで今回のワークショップの総括を清野和夫教授が行った。

閉講式では新田歯学部長からこれからの歯学教育について話をされた後、参加者全員に修了証書が授与された。今回のワークショップに参加された先生方の意見が反映され、今後の歯科医学教育とくにカリキュラム作成に活かされることを期待している。

(鎌田 政善)



ディーゼル排ガスの健康影響に関する**研究への取り組み**

ディーゼル排ガスの健康影響に関する研究は、その黒煙から容易に推測されますように、主として気管支炎や喘息などの呼吸器系に及ぼす影響が、疫学的研究から明らかにされてきた経緯があります。しかし、私共の初期の研究により新たに雄性生殖系への影響が内分泌攪乱作用として注目されるようになりました。本稿では、私が主として携わっているマウス（ハツカネズミ）を用いた研究をご紹介します。

私たちの最近の研究から、曝露影響の強い時期は胎仔期にあることがわかりました。すなわち、胎仔期あるいはそれを含む期間、ディーゼル排ガス曝露を実施すると、雄性生殖系においては生殖能力の低下を意味する精子数、精子運動率や男性ホルモン濃度の減少および組織学的異常像などを、脳神経系においては、行動異常とそれを裏付ける脳内物質の変動や組織学的異常像などを引き起こすなど、ともに次世代に影響を与える結果が得られています。マウスで起きたことをヒトでも考えるのかという議論がありますが、医薬品では、ヒトでの投与量の100倍量（体重換算値）の投与によって、このような作用が認められた場合、その医薬品は発売中止になる可能性が高いということで、重要性はご理解いただけるのではないかと思います。また、これらの影響は排気中のガス成分ではなく微粒子成分にその本体がある可能性が高く、それらはナノサイズの粒子が多数を占めることから、現在、我が国で次世代中核産業として注目されているナノ粒子の応用にあたっては、その健康影響や環境影響を考慮すべきであると考えられ、注意が必要です。

本学において、私は細胞レベルでのナノ粒子曝露影響に関する研究を本学薬学部共同研究資金のご援助のもとに、薬学部上野明道教授と開始したところです。今後とも、関係各位のご協力を得ながら、近い将来、本学発の研究成果として国内外に発表し、その成果を

再び学報でご紹介できるように研究に励む所存です。

(押尾 茂)

第40回奥羽大学歯学会

標記学会が去る11月12日(土)に本学臨床講義室にて開催された。午前9時25分の新田敏正学会長の挨拶により始まり、一般口演13題、学位口演4題、症例展示2題ならびに特別講演が行われた。学会に参加した各研究者から活発な質疑応答が行われた。

特別講演は講師として日本大学工学部長の小野沢元久先生を招き、「新産業育成と大学の役割」と題して講演が行われた。講演ではバブル経済崩壊以後の景気の長期低迷、製造業の空洞化は経済の基盤条件の変化により起こったものであり、周辺諸国とくに中国の経済成長が影響している。これまでは「経済格差」に比例して「イノベーションの時間差」が存在していたが、IT・ユビキタスコンピューティングの情報力によって格差が解消され、労働力の国際化によって世界が一つの市場として機能し始めている。現代の企業社会は「問題処理の迅速さと責任の所在」が最重要視されている。従来のように日本経済が発展を持続するためには「イノベーションの時間差」を維持し続ける新産業の創出、新技術の開発が課題であると述べていた。

また、「新産業・新技術の創出と大学・産業の連携」においては、大学と産業の連携を組織的に行ったスタンフォード大学での特許戦略による研究費の獲得の例が紹介された。日本においても文部科学省ならびに経済産業省による制度改革「大学技術移転促進法」、「技術移転機関の承認」などの事業により産学連携を支援しはじめている。これまでは大学は研究・教育機関として“高度専門職業人”を育ててきたが、これからの大学には“大学内で生み出した新技術を産業化する”ことによって、社会貢献をする第三の役割が要求されている。これに応える日本大学での取り組みとしては新産業育成機関「NUBIC」が設

立され、大学の総力を結集して研究室・学部の枠を超えて連携し合い、社会が求める産学連携を実現し研究の活性化を促す構想が推進されている。日本大学は多数の特許を取得しているが、医・歯・薬学系の分野が半数を占めており、その代表例としてデンタルCT撮影装置を挙げ、これからも企業のニーズが高まる分野であると述べていた。

近年第三者機関による大学評価が行われるようになったが、今回の特別講演は大学が新たな社会的要求に答えることができなければその存在価値を失いかねないことを予感させた。

第40回歯学会は、午後4時に鈴木康生副会長の閉会の挨拶で終了した。なお、第41回奥羽大学歯学会および総会・評議員会は平成18年6月17日(土)に開かれる予定である。

(菊井 徹哉)

奥羽大学文学会第46回発表会

さる10月6日(木)、本年度3回目の文学会発表会が5号館537教室で行われた。発表者は昨年度に引き続き共通教科の武田忠教授(教職課程)、演題は「子どもの内面を耕すことばの教育」である。

武田教授は、現在、京都と青森の小・中学校で教師たちと共同研究を続けておられる。発表では、ご自身による国語の授業実践の紹介を通じて、独自の学習理論に基づく「問いづくりの学習」指導法が提唱された。

ゆとり教育の結果「学力低下」が生じたとして、文科省主導でその見直しが始まっているようである。だが、従来のいわゆる「詰め込み」に戻るのでは、教育改革そのものが水の泡となって消えるであろう。武田教授の授業研究は、「ゆとり」でも「詰め込み」でもない、「子どもたちが自ら学び自ら考える教育」という現行学習指導要領の精髓を真に活かそうとする試みである。

(佐藤 富晴)

奥羽祭

10月15日(土)・16日(日)の両日、第13回奥羽祭が開催された。今年は、私たち学友会にとって、特別な意味を持つ大学祭だった。実行委員として歯・文・薬学部がそろって最初で最後の年だからだ。「いままでとは違った事をやろう」と皆で努力し、支え合ってきた。私は一人でも多くの学生に大学祭を楽しんでもらいたかった。出来る限りのことはすべてやったつもりである。それも、多くのメンバーに囲まれていたから出来たことである。しかし6月頃は「今年で学友会はなくなるのではないだろうか」というほどの閑散を見せていた。次第に近づいてくる大学祭。だが、ふと気づいてみれば学友会室には賑わいがあつた。

大学祭前日、私は誰もいない夜のステージに上がり会場を眺めていた。いままでの集大成が明日から始まるのだという思いが、心の奥で燃えていた。実行委員長とは、特にこれといった仕事はない。ただ俯瞰が求められ、全体を統率する必要がある。

私は昨年の実行委員長と話をしているうちに、ひとつの信念を心に掲げていた。「自分が決めたことに悩まず、自信を持てるよう努力する」ことである。決める側が自分の決めたことに対して不安や悩みを抱えていたら、動く側は何もできなくなってしまう。私は様々なミスやトラブルも即座に、そして冷静に対応できるよう心がけた。だが、思い返せば、私がそこまでの対応が出来たのは学友会会長への信頼があつてこそだ。「どうすればいい」という質問が混線している無線を握り締め、そこで決断が求められたのは私達だった。私が本部を離れなくてはならないときも、「むこうには会長がいる」というその考えだけで、私は多くの事が出来たように思える。もちろん、他メンバーにも信頼を寄せている。だからこそこちらの考えを実行してもらえたのだ。

イベントの盛況には裏方で頑張っている人がいる。学友会で学んだその精神は、社会に出てどんな仕事に就いても通用するものだと

思う。これから大切なのは、私達は大学祭を終えて何を得たのか。後輩も、私達の姿を見て何かしら感じるものはあったと思う。私が最初に望んだものは、きっと「絆」として残ってくれたはずだ。

思い起こせば、数々の苦悩と困難を乗り越えてきた。一人一人の時間が合わず、人員不足で泣いた日があった。仕事が終らずに、焦りだけが生じる日もあった。すれ違いで、皆の雰囲気が悪くなることもあった。夏休みを返上した人もいた。深夜2時までの会議もあった。ぎりぎりになってようやく完成したものもあった。それらを全部含めて、私は皆に感謝したい。あれほどまでに盛況でそして楽しかった大学祭は、他の誰にも創ることはできない。私達であったからこそ創れた最高のものだ。

また、多くの方々の助力があったからこそ成功できたということも、忘れてはいけない。

大学祭が終わった瞬間、あれほどすれ違っていた私たちの心は、確かに一つになったのである。あの達成感と充実感は、きっと私の人生の中で忘れられないものとなるだろう。

(実行委員長 伊藤 巧)



保護者懇談会

10月15日(土) 歯学部233名、薬学部57名、文学部7名の父母が来校、クラス担任との面談に臨んだ。

薬学部では初めての懇談会となり、全体懇談会にて永井薬学部長、廣井学生部長の挨拶のあとそれぞれクラス担任との個別懇談を行った。前期定期試験の結果や出欠状況をふまえての面談のため、参加された保護者の方々は、担当する教員からの説明を真剣な表情で聞き入っていた。歯学部についても同様の個別懇談が実施され、6年生の保護者対象には進路説明会も催された。



2005年度第2回就職“HONKI”セミナー

福島県内私立5大学主催による2005年度第2回就職“HONKI”セミナーが、9月20日(火)にいわきワシントンホテルで開催されました。企業71社が面談ブースを構え、約250名の学生が参加しました。

今回のセミナーでは、企業数が多く内容が充実していたとの感想が目立ちました。

多くの学生が参加することにより、学年全体の就職意識が高まり、それが就職内定に繋がるのかもしれませんが、4年生にとっては残り少ない学生生活を、有意義に過ごしてほしいと思います。

インターンシップ報告会

今回、私は8月29日(月)～9月4日(日)の1週間インターンシップとして栄楽館ホテル華の湯で研修を行いました。ホテル業は以前から興味があり、どのような職業なのかよく知ることができ、とても良い機会となりました。

最初は自分がこの職業に向いているのか心配でしたが、企業の方々には親切にしてください楽しく研修を行うことが出来ました。

そして、研修後の10月26日(水)に郡山商工会議所でインターンシップ推進事業報告会に参加しました。今年は、実施企業数、大学数が多少増えたものの参加学生数が前年度より減った傾向が見られました。

しかし、参加した学生のほとんどから「参加して良かった」という声がありました。職業体験をする機会が少ないなか、この機会をつかって行う事がとても大切になると私は思います。今後、今まで以上に学生、企業が互いに目を向けあっていくことを願っています。この機会を与えてくれたみなさん、そして受け入れてくれた企業の方々、本当にありがとうございました。

(英文科3年 及川 卓弥)



文学部就職個別面談

文学部3年生は現在、就職活動の前夜にある。いくつかの報道によると、景気の回復に伴い、企業の多くで新卒採用を積極路線に転じつつあるようだ。こういったなか、就職活動開始に際しての個別面談が行われた。自らを客観的に見つめなおす、自己分析から活動は始まる。早めのスタートは、就職活動成功の必須の条件である。売り手市場の波に乗り、希望者全員の就職内定獲得を期待したい。



薬学部キャリアガイダンス

薬学部生対象に10月7日(金)第2講義棟第1講義室にて開催した。

講師 (株)ネオリッチ 篠原 倍雄

「薬系・進路」編集長

参加 80名

自分らしい生き方をデザインする「薬学生としてのキャリア形成」をテーマとして、資料にそった自分理解(自分さがし)・社会の理解(職業理解)について講演をした。



附属病院

大学附属病院間で医療安全相互チェック実施

厚生労働省が国立大学病院に対して義務づけている医療安全相互チェックに、今年から私立大学も参加可能となり、本学は広島大学、大阪大学と相互チェックを行うことになりました。

まず、9月12日(月)に、広島大学と大阪大学が当院を視察しました。当院は、安全に関するマニュアルや各種研修会が十分整備されており、お褒めの言葉を頂きました。

次に、9月21日(水)に、本学(私と渡辺克己庶務係長)と大阪大学が広島大学歯学部附属病院を視察しました。午前中は書類とシステムを視察し、午後は病院内を視察しました。視察後、大阪大学と本学の委員で問題事項について協議し、広島大学歯学部附属病院の主な責任者が大勢同席する中で、1)医療安全マニュアルは細部まで網羅されているが、掲載箇所がわかりにくい。2)医療安全研修会の参加人数が少ない。3)リスクマネージャーの院外研修が少ない。4)医学部と歯学部の病院合併で、職務内容の統一が図りにくい。5)病棟と外来の区分がない。などの事項の改善を求めました。

最後に、9月29日(木)に、本学(私と長谷川淳子看護課長)と広島大学が大阪大学歯学部附属病院の視察を行いました。大阪大学は国立大学で唯一、附属病院が内科と歯科で合併



広島大学歯学部附属病院の病棟にて

しなかった大学です。前半は書類とシステムを視察し、後半は病院内を視察しました。視察後、本学と広島大学の委員で問題事項について協議し、大阪大学病院の主な責任者が大勢同席する中で、1)インシデント報告はオンラインで提出するためにプライバシー保護の点で良いが、特定の委員しか閲覧できない。2)年2回行われる医療安全研修会では出席者にシールを配り、ネームプレートに貼付させるため、啓発効果が高い。3)病院が狭く、外来患者も多いため、診療室はすれ違いも困難なほど狭く、衝突事故が起きやすい箇所や、ストレッチャーや車椅子が入る隙間がない箇所もある。4)病棟も狭く、ミキシング台も整理が求められる。などの事項を指摘しました。

今回の相互チェックで、他大学附属病院の裏まで見ることができたことは、大きな収穫となりました。全体の感想として、国立大学は大きな支えがある反面、附属病院合併や各制度などによる縛りも多く見受けられました。本学は縛りが少なく、思い切り仕事ができる環境にあることを改めて実感しました。

(山崎 信也)

個人情報保護管理に関する研修会

奥羽大学歯学部附属病院では、本年3月に個人情報保護法対策準備委員会を立ち上げ、基本指針、管理体制の構築、各部署における個人情報の点検・確認、院内に従事する教職員への周知を行い、個人情報取扱いに関する理念、法、関連法令の遵守と確認、利用目的の通知、第三者への提供、個人情報の安全管理措置、苦情相談への対応を公表しています。

10月17日(月)に2度目の研修会を開催し、ここで、患者さんを大切に扱うという医療の大原則に立ち返り、その中に適切な医療を提供する、安全に医療を受けてもらう、決定権を尊重する、とともに患者さんの情報を大切に扱う、が含まれることを確認しました。そして、患者さんの情報を大切に扱うということは、医療従事者にとっては、目的外使用の禁

止、第三者提供の禁止を守ることに他なりません。

骨太のポリシーをもつ、すなわち「個人から得た医療個人情報はその人の診療等の健康に還元する範囲で、かつそれに関わる医療従事者で使われる限り、これまでと同じルールで行う」。これを超える場合は、「原則として個人の同意」か「相応の理由」を要するということに尽きるのです。

個人情報保護法は難しくない。つまり、骨太のポリシーを理解し、目的外使用の禁止、第三者提供の禁止というキーワードで立ち止まり、本人の同意かあるいは除外規定を参照すること、さらに一人で決めず、迷った事例はその過程を記録に残すことと考えて下さい。

注意すべきは、過敏になりすぎる傾向があり過度に対応しないということも大切ではないでしょうか。

(清野 晃孝)

社会保険歯科集団指導

例年実施されている福島社会保険事務局および福島県保健福祉部国民健康保険グループによる集団指導は、9月27日(火)午後4時から診療に携わる全教職員参加の下に開催された。今年の資料は保険医規則について重要な部分をコンパクトにまとめるなど、よりわかりやすい資料であった。

また、若者の年金離れからか、年金課から国民年金の講話も同時にあり、自分たちの将来の年金額の話題で盛り上がり、予定時間に無事終了した。

(齋藤 高弘)



私が薦める一冊の本

『サンカの民と被差別の世界』

(五木寛之著、2005、講談社)

ジプシーという語を聞いたことがあるでしょう。「流浪の民」とも呼ばれています。『広辞苑』によると、「インド西北部が発祥の地といわれ、6~7世紀から移動し始めて、今日ではヨーロッパ諸国・西アジア・北アフリカ・アメリカ合衆国に広く分布する民族。言語はインドイラン語系のロマニ語を主体とし、髪は黒く皮膚の色は黄褐色またはオリブ色。移動生活を続けるジプシーは、動物の曲芸・占い術・手工芸品製作・音楽などの独特な伝統を維持している」となっています。彼らは21世紀の現在でも定住することなく、パスポートもなしで自由に国境を越えて流浪の生活を続けています。また、ジプシー音楽というと、情熱的な舞踊音楽が多く、独特の音階・リズム・旋律の装飾などがみられ、…(『大辞林』)ということでわが国でも愛好者が多く、何かとロマンチックな夢をかき立てられる人もいますでしょう。

ところで、遠い他国の話と思っていると、さにあらず、このわれわれの日本にも、このジプシーに類する生活をする人々がごく最近までいたのです。そのうちのひとつが、山と山沿いの河川のほとりをさまよいつつ、主として川魚漁と竹製品などの製作・修理を生業として生活していた人々がいたのです。彼らは定住せず、その都度作った仮の小屋で寝泊まりし、したがって戸籍もなく納税もせず義務教育も受けず、また戦前は徴兵検査も受けずに放浪の生活をしていました。年に1~2回村里を訪れては、籠や箕の修理をしたり門付けをしたりするのが唯一一般人との関わりでした。このような人々を一般にサンカと呼んでいます。これは彼らの自称ではありません。

また、いっぽう、同様の生活ですが、山ではなく海(主として瀬戸内海)を放浪の場としていた人々もいました。彼らは船の上で生

まれ一生を過ごしそして死んでいくのです。現在の漁業とは違って、彼らは主に一本釣りで魚を捕っては細々と生活していました。ごくたまに港を訪れては漁獲物と交換に日用品の必需品を手に入れていました。

このような人たちがつい50年くらい前までこの日本にいたのです。義務教育を受けていないので、文字の読み書きができず、一般社会に出ても生活できません。運転免許も取れません。

彼らの祖先がどのような人たちであったのかについては、まだはっきり分かっていません。研究者によってさまざまな説がありますが、たいへん興味深い説の一つとして、彼らの祖先は日本列島の先住民族ではなかったかというのがあります。すなわち、彼らの祖先は、その後どこからか日本列島に攻め込んできて大和朝廷を築き次第に全土を征服し、現在の大部分の日本人の祖先となっている人々によって迫害を受け、やむをえず辺地に逃亡した人たちではなかったか、という説です。そのほかにも、日本の歴史のいずれかの時点で何らかの理由で迫害を受け、差別された人たちではないかという説もあります。いずれにせよ、ここに推薦する書物は、著者が文学者としての人間に対する暖かい思いやりと同時に学者としての厳しい目をもって、手に入る文献をもとに、さらに度重なる現地調査をして取材したデータに基づき書かれたものです。通常の歴史は支配者の歴史です。ときには被支配者、被差別者の側から歴史や社会を考えてみたいものです。

(早坂 高則)



余 滴

最近フランスで移民による大規模な暴動が起こった。失業問題などに対する不満から、暴動はまたたく間にフランス全土に広がった。非常事態法の適用や夜間外出禁止令など、先進国では異例の事態となった。「暴徒」の大半は、未成年者などの若者である。背景には、学業や就業の機会を十分に持てない移民の子弟たちの困窮と不満が存在している。

ヨーロッパでは、60～70年代の好景気の時代に、労働力不足を補うため、数多くの外国人労働者を受け入れてきた。イギリスにはインド・パキスタンから、ドイツにはトルコから、フランスにはアルジェリア、ナイジェリア、モロッコなどのマグレブ諸国から大量の労働者が流入し、やがて彼らは家族を呼び寄せ、移民として定住化していった。その多くはイスラム教徒であり、大都市近郊にはイスラムのコミュニティが形成されていった。フランスでも、大都市の周縁部におよそ500万人の移民が暮らしている。

フランスの受け入れ政策は、移民をフランス社会に同化させる同化主義政策が中心である。フランスの共和国の理念には、自由かつ平等な権利を持った個人＝市民によってのみ共和国が成立するという伝統が存在する。マイノリティの就学や就職での積極的差別是正を企図した米国のようなアファーマティブ・アクションは、フランスではなかなか採用されづらい。移民社会の不満が若者を中心に爆発した今回の事件の背景には、緊縮財政のなかで移民の生活を支える諸団体への助成が削減されたことによって、移民社会の荒廃が進んだという事情がある。移民たちの失業率は高く、とりわけ若者世代は4割に上るといふ。

フランスが直面している移民社会との共存という問題は、欧州連合（EU）各国が、程度の差こそあれ、抱えている課題である。欧州市民権という新たな挑戦のなかで、移民問題がどのように解決されていくのかは、政治学上の大きな関心事でもある。

(土井 美徳)

同窓会

歯学部同窓会

開成会同窓会新潟県支部からの近況報告

新潟県歯科医師会の会員数は平成17年9月現在1,316名です。同窓生は県内各所に広く分布しています。最近同窓生の開業・入会者は上越市付近で多く、新潟市付近は歯学部が2つ在り開業歯科医も500件を超えて飽和状態のせい、一般に新規開業が少なく、同窓生の話ではありませんが、逆に新潟市内開業の先生からは市外や県外への転出者が始まっています。新潟での開業歯科医を出身校別に見ますと、日本歯科大学新潟校（東京本校を含む）、東京歯科大学、新潟大学歯学部、日本大学歯学部の順になっています。また、国立の新潟大学が独立法人化された事を契機に、各科の統廃合、医局員数の削減が進み、今後開業者が増える傾向にあるようです。

平成17年10月現在、新潟県内の同窓会員は31名（1期卒～22期卒）が在籍しています。その他に県内で開業や勤務されている先生も数名居られると聞いておりますが、入会を希望されない方や勤務医で短期勤務である為入会されない先生等、事情は様々です。支部会費は入会金2,000円、年会費年額15,000円（開業医）、勤務医5,000円です。年間の行事としては、支部単独での総会（5月）、大学本部から教授、助教授をお迎えしての講演会・忘年会（11月）、会員の親睦としてゴルフ大会等を開催しております。その他に新設歯科大学7校（愛知学院大、神奈川歯科大、鶴見大歯学部、北海道医療大、松本歯科大、明海大歯学部、奥羽大歯学部）で会員総数150名程度の「空穂の会」という団体を組織して、毎年各校が持ち回りで年1回の親睦会を兼ねた学術講演会を開催して今年で8回目となりました。

また、支部の計画では、18年度は母校を見学し、懐かしい郡山や付近の風景を楽しむ為の支部旅行をしようかとの話が出ております。私ですら卒業して23年になりますが、数年前

に、郡山経由で東京へ出かけた際に、道路事情の変わり様には本当に驚かされました。

学生時代6年間を過ごした地での、在校の先生方や学生さん達との酒盛りを楽しみにしております。

（新潟県支部専務理事 萩原 弥）

文学部同窓会

来たる12月18日(日)、幹事・理事による本年度定期総会が催されます。今回の議題の焦点はなんとといっても、昨年度から協議事項として引き継がれています「会員減少による予算の見直しと財源の確保」です。来年度、その卒業生を迎えると同時に、本会員数は増加することはありません。しかし約4,000名の文学部卒業生がほぼ全員、会員として在籍しています。今後の組織運営に関しますと、財政面においても非常に厳しい状況になってくることが予想されます。現在の残高の有効な使い方を、執行部役員と顧問税理士の方とで模索し、そして末永く会を存続させていくことが今私たちの急務となっています。

総会の議事に関しては、今後も同窓会ホームページwww.ohu-1(エル).netでお知らせしていきますので、ぜひご覧になってください。次回更新予定日は1月です。よろしく願いいたします。

[お知らせ]

同窓会ホームページ、[http://www.ohu-1\(エル\).net](http://www.ohu-1(エル).net)はホスティングサーバーの移動により、現在SSLセキュリティー機能が停止しております。住所の新規・変更届けをされる会員のみなさんは、1月以降の入力をお願いいたします。

（会長 松尾 毅）

同窓生のひろば



岡本 吉平

(歯学部4期生)

昭和56年に卒業し、はや四半世紀が迫ってきています。送られてくる同窓会誌を見て、時折目にする旧友に「おっ、あいつ白髪まじりで随分老けたなあ」などと自分の事は棚に上げて後から鏡を見て苦笑しているのは私だけでしょうか？

金沢市郊外に開業してもう20年余ですが初めての10年間同窓生は私だけ、その後徐々に増え、7人となりました。近隣の先生に助けられながらなんとか石川の代表をさせていただいております。

最近息子もそろそろ相手にしてくれなくなる年になり、学生の頃からの趣味の天体観測用望遠鏡を作って数年前から近くの児童館で(星のおじさん)として観測会をしています。子供たちの感動の声、「すごい!おじさんもっと大きいの作ってえ」の声におだてられ、日本最大級の双眼鏡の製作を決断、ところが先立つ物も昔ほど自由にならない。そこで中古の工作機械を買って可能な限り自分で、ついでに沸いたアイデアを一応特許申請(過去にもしたが利益なし)、アルミ鋳造も本職が役立って原稿締め切り3日前になんとか完成しました。子供達の歓声が楽しみです。

聞くとところによりますと、星空というものは人間に安らぎを与え、ストレスを取り除い



てくれるものとされています。皆さんも仕事が終わったら双眼鏡を空に向けてみて下さい。きっと沢山の星たちが迎えてくれますよ。興味がありましたら私の名前で検索して下さい。とまあ趣味のことばかりになってしまいましたが、原稿締め切りと完成が一緒になったので気の向くまま書いてしまいました。それでは皆様も健康に留意され頑張ってくださいませ。



菅野 幸恵

(英文科12期生)

早いもので本学を卒業して1年半が過ぎました。しかしその一方でこの1年半、環境の変化がいぶ大きかったせいか学生として過ごした日々がずいぶん前のようにも思えます。今私は空港のグランドスタッフとして働いています。予約・航空券発売、飛行機で旅をされるお客様の空港のご案内がおおまかな仕事です。

自分で選んだ仕事でしたが、入社した当初は仕事内容を覚える以前に、言葉遣いや挨拶、笑顔など人への接し方が思うようにうまく出来ないことにずいぶん苦勞し、もうやめてしまいたいと思うこともありましたが、お客様相手にはもちろんですが、会社の人に対してもきちんと話すことができなかつたのです。丁寧に言おうとすればするほど変な敬語や丁寧語になってしまったり、明確な返事が出来なかつたり。それまで友達や家族と過ごすことがほとんどの環境であった故、まったく習慣づいていなかったのです。社会においては当たり前前の事が出来ないという事を痛感させられたときでした。今もまだまだではありますが、先輩からのアドバイスや日々の仕事によってその頃よりは成長できたのではないかと思います。入社2年目にして、ようやくお客

様に対しても自然な笑顔で接することが出来るようになりました。入社1年目はとにかく仕事に慣れる事に精一杯のまま過ぎていきましたが、2年目に入り自分を見直す余裕が少しずつ出来てきました。仕事をしていくという事は、ただ日々の業務をこなしていくだけではなく、人間としても成長していける事なのだ実感しています。学生時代は友達に囲まれ自由で楽しく過ごせます。それに比べ社会人になると、思うようにいかない事や辛い事もたくさんありますが、仕事を通して得るものもたくさんありました。この仕事に就いて良かったと思っています。

これからも常に今の自分に満足する事なく、成長していけるよう努力していきたいと思えます。

—(株)JALスカイ福島勤務—

<任用>

宮澤 忠蔵 教授 口腔衛生学 10月1日付

<採用>

三坂 清美 事務職員 学事部
(歯学部担当) 11月1日付

慶弔

<訃報>

慎んでお悔やみ申し上げます。

- 病院事務部 庶務係長 渡辺 克己
祖母 白倉トモエ 殿 (95歳) 10月7日
- 歯学部 口腔病態解析制御学助手 松渕 志帆
祖父 船田 正明 殿 (90歳) 10月8日
- 歯学部 成長発育歯学助手 相澤 徳久
実母 相澤しめ子 殿 (73歳) 10月20日
- 歯学部 診療科学教授 齋藤 高弘
義父 山口 耕作 殿 (79歳) 10月22日

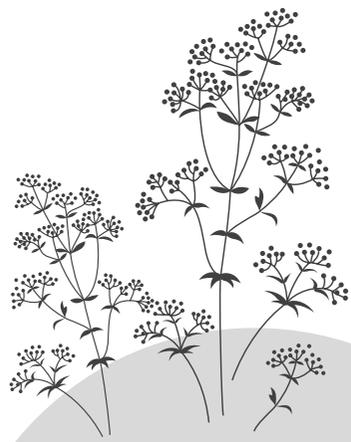
人事

<定年>

宮澤 忠蔵 教授 口腔衛生学 9月22日付

<退職>

榮田 宏光 助手 附属病院 9月27日付
清野 浩昭 “ “ 9月30日付
田辺 弘毅 “ “ “
鈴木 奈央 “ 口腔病態解析制御学 10月31日付
柳沼 信人 技術職員 総務部 “



行事予定

平成18年

1
月

January

- 6 (金) ㊦冬季休業終了 (5年) ㊦㊧冬季休業終了
7 (土) ㊦後期授業再開 (5年) ㊦㊧後期授業再開
7 (土) ㊦㊧卒業論文提出 (4年)
9 (月) ㊦冬季休業終了 (1~4・6年)
10 (火) ㊦後期授業再開 (1~4年)
10 (火) ㊦㊧11 (水) ㊦㊧第2回卒業試験 (6年)
10 (火) ~2/6 (月) ㊦㊧一般一期入学試験 出願期間 ㊦㊧一般一期入学試験 出願期間
16 (月) ㊦㊧後期授業終了
17 (火) ~23 (月) ㊦㊧後期定期試験
20 (金) ㊦㊧後期授業終了
- 23 (月) ・24 (火) ㊦㊧第3回卒業試験 (6年)
24 (火) ~30 (月) ㊦㊧後期定期試験
27 (金) ㊦㊧卒業予定者発表 (6年)
30 (月) ・31 (火) ㊦㊧第5回総合試験 (6年) ㊦㊧教育実習事前指導 (3年)

2
月

February

- 1 (水) ㊦㊧教職免許状等申請 手続きガイダンス(4年)
6 (月) ㊦㊧後期授業終了(1~4年)
7 (火) ~16 (木) ㊦㊧後期定期試験(1~4年)
8 (水) ㊦㊧一般一期入学試験
9 (木) ㊦㊧一般一期入学試験 合格発表
10 (金) ㊦㊧一般一期入学試験
11 (土) ・12 (日) ㊦㊧歯科医師国家試験
13 (月) ㊦㊧成績発表
13 (月) ~3/1 (水) ㊦㊧一般二期入学試験 出願期間
14 (火) ㊦㊧一般一期入学試験 合格発表
18 (土) 大学院Ⅲ期入学試験 ㊦㊧臨床実習終了(5年)
20 (月) ~24 (金) ㊦㊧臨床実習総合試験(5年)
20 (月) ~3/3 (金) ㊦㊧一般二期入学試験 出願期間
27 (月) ㊦㊧公務員模擬試験
28 (火) ㊦㊧卒業予定者発表(4年)

3
月

March

- 3 (金) ㊦㊧一般二期入学試験
4 (土) ㊦㊧一般二期入学試験 合格発表
6 (月) ㊦㊧一般二期入学試験
7 (火) ~8 (水) ㊦㊧登院前試験 (4年)
8 (水) ㊦㊧記念植樹式・卒業式 リハーサル
9 (木) ㊦㊧一般二期入学試験 合格発表
10 (金) ㊦㊧㊦㊧卒業証書・ 学位記授与式 ㊦㊧父兄会総会 ㊦㊧教育職員免許状・ 司書資格証明書授与 (4年)
17 (金) ㊦㊧進級発表
22 (水) ㊦㊧進級発表 (1~5年)

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸いです。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先/奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報104号 (通算No.229) 平成17年11月15日発行

発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清水秋雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp